

アマチュア楽団紹介

「サッポロシンフォニックバンド」

今回は指揮者の鈴木さん、団長の佐藤さん、副団長の金濱さんにお話を伺いました。

Interview

●バンドの歩み

金濱：今年で創立44年目です。現在、20代から50代まで幅広い年齢層で活動しています。入団資格は高校生以上です。

佐藤：1971年に北陽中学校のOB7人で結成。当時は市内の高校に吹奏楽部がほとんど無かったことから、卒業後も集まること



すずき えいichi
指揮者 鈴木 栄一

のできる場として作られました。その後、同じような境遇の高校生が活動の場を求めて続々と入団しました。

東京都交響楽団の小田桐さんも創設メンバーですし、NHK交響楽団など音楽の世界で活躍している方が在籍していた時代もあります。今でこそクラシック作品を主体に取り組んでいますが、30年ほど前は時代の最先端を走っていて、今や一般的となった「1部はクラシック、2部は照明等の演出効果を取り入れたポップス」という演奏会スタイルを道内で定着させたのは当団だと思えます。歌って踊ったり、役者と一緒に音楽劇をやったりもしました。Kitaraが出来てからは、そうした演出がホールと合わないこともあり、現在はクラシック主体で活動しています。



さとう のりあき
団長 佐藤 憲明



かねはま よしのり
副団長 金濱 吉範

●定期演奏会について

金濱：最近の定期演奏会はほぼ100%鈴木先生のアレンジでやっています。

鈴木：テレビや他の演奏会で聞いて良いなと思った曲を編曲しています。定期演奏会用に倍くらいの曲を準備するのですが、実際に演奏してみると印象が違ったり、あとは団員の好みじゃなかったりもするので、最後は団員の人気投票で演奏曲を決定しています。

佐藤：奏者側からするとかなりチャレンジングな選曲と思っています。アレンジが原調なので、楽譜には＃が

ずら一と並んでいて大変です(笑) 今では皆慣れましたが、管楽器の特性上、速さが求められる楽曲は難しいところがありますね。

鈴木：最近では交響曲シリーズとして、吹奏楽ではあまりとりあげられないシューマンやブラームスなどにも取り組んでいます。今年の定期演奏会(9月22日)では、「ヘンゼルとグレーテル」や「交響曲第一番「春」」といった曲もやります。聴衆の方々は、中高生よりもオーケストラのファンや年配の方が多いんですよ。

佐藤：昨年の定期で、ベートーヴェンの交響曲第7番を演奏したのですが、90歳の方がアンケートに「良かった」と書いてありました。狙い通りで嬉しかったです。

●今後の活動について

佐藤：活動の基本方向としては、アマチュア演奏家の集団として、明日はもっとできるんじゃないかという気持ちで大切に、そうした思いを同じくする者の自己表現の場としてあり続けたいと考えています。当団は、鈴木先生のアレンジをキーコンテンツとして、吹奏楽



の新しい世界に取り組んでいます。そうしたことを実現させるために演奏者として参加して頂くことも歓迎しますし、演

奏を聴きに来て頂くことも嬉しいです。

金濱：定期演奏会の他にも、屯田地区センターでふれあいコンサートを年2回やっていて、ポップスやオリジナル作品も演奏しています。よろしければ是非ご来場下さい。

